



## ご挨拶

院長 保坂 征司

平素より当院をご支援賜りまことにありがとうございます。

2020年は新型コロナウイルスに世界が席卷された一年となり、現在もなおその真ただ中での2021年の幕開けとなりました。ワクチンは開発されつつありますが、まだ治療薬の開発には時間を要し感染防御と社会経済活動の両立に向け、明確な答えのない中での難しい舵取りが求められています。

愛媛県においては県の強力なリーダーシップのもと、迅速な濃厚接触者の囲い込み等も行われ、これまでのところ早期の収束が達成されていると思われまします。ここ宇和島医療圏においても宇和島保健所の御尽力と住民の皆様の感染予防対策徹底の結果としてクラスター発生を抑えることができています。しかし、冬場は最もウイルスの活動性も上がる時期であり油断は禁物です。実際に12月中旬現在、全国に大きな第3波が到来しています。当院も引き続き行政および近隣医療機関とも連携をしながら、検査体制の構築や検査機関への協力を行いこの地域での新型コロナウイルス対策の一助となれるよう努めていく所存です。

さて、宇和島市の高齢化率(65歳以上)は他の地域に先んじてついに40%に達しました。このような地域においては病気に罹患した患者様に単に病気の治療を行うだけでなく、治療した後の事を見据えた医療の提供がより必要となってきます。高齢の患者様が数日間入院加療を行っただけで歩行がままならなくなることも私たちはよく経験します。徳洲会病院は理念のひとつに「健康と生活を守る病院」を掲げています。宇和島医療圏において、特に当院の地域における役割として、リハビリテーションの重要性はより高いと考え本年はリハビリスタッフを増員し、より多くの患者様の生活を守ることに貢献できるよう尽力したいと考えています。

最後に、昨年は「うわじま牛鬼祭り」をはじめ、ほとんどの年間行事が開催されることなく自粛・萎縮の一年でした。奇しくも今年は丑年です。さすがに牛鬼もじっとはしていられないでしょう。有効なワクチン開発のもと東京オリンピックが開催され日本が明るく、さらには「牛鬼祭り」が開催され宇和島が元気になることを期待しています。

そして、当院が今後ますます地域に欠かせない病院となれますよう、本年も質の高い医療の実践を目指していきたくと考えます。

どうぞこれからも当院をご支援賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

## 看護部長 相原 雅永

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、受診時の検温や健康チェック、発熱時の電話予約、面会禁止など、新型コロナウイルス感染対策にご理解・ご協力をいただきましてありがとうございます。お陰様で院内クラスター発生や市中感染なく新年を迎えることができました。ご家族が県外に出ているご家庭も多く、心配は尽きないと思います。いまだ終息が見えない状況が続いておりますので、2021年も感染予防を徹底し、この一年が平穏に過ごせることを願うばかりです。

当院の特徴は、一般急性期病棟や腎移植病棟の他に、長期入院が出来る医療療養病棟・障害者病棟・回復期リハビリ病棟があり、患者様の状態に応じた入院ができること、院内に居宅支援事業所や訪問看護ステーション、通所リハビリ、健診センターがあり、疾病の予防から在宅支援まで幅広い医療と介護を提供できることです。他の病院や施設からの入院も多く、宇和島医療圏や地域包括システムの中で、当院の果たす役割は大きいと自負しています。今後も保坂院長の方針のもと職員一丸となり、地域医療に貢献できるよう尽力してまいります。

さて、2020年は様々な行事や研修などの催しが中止となりました。その一方で、コロナ禍だからこそできた取り組みがあります。例えば、リモートによる面会や会議・研修、発熱外来の院外設置、感染予防や業務負担軽減となる資機材の整備です。中止となった中学校・高校の職場体験は、職員が学校に出向き職業講話をさせていただきました。2021年も引き続き、コロナ禍でもできることを職員と共に考え、前向きに取り組みたいです。

末筆となりましたが、住民の皆様もくれぐれも感染予防に留意されますよう、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。



